

《資料》

部落解放研究関係文献目録

(一九八三年四月～六月)

【現 状】

(編集部) 「大阪・更池部落の保健衛生活動」
『部落解放』一九六号、4月)

太地町人権尊重推進委員会 『同和問題に関する町民の意識調査』
昭和57年11月実施 (同上、4月)

岩見光男 「(現地報告) 結婚についての近代化・民主化―美濃市
での変化」 (『部落』四三一号、5月)

ミアム・シニライバー 「少数者の問題―部落差別の実態につい
て」 (『部落解放』一九八号、6月)

熊本県 『熊本県同和地区実態調査表―生活等実態調査』
(同上、1983年)

【行 政】

広原盛明 「小集落地区改良事業の到達点と今後の課題―(その三
) 大津市D地区の場合」 (『部落』四三〇号、4月)

隣保館運営の手引作成委員会編 『隣保館運営の手引』

(厚生環境問題研究会、4月)

尼崎市 『尼崎市個人給付の事業実施要綱等(昭和58年4月1日)』
(同上、4月)

高知県同和对策本部 『同和对策事業の概要(昭和58年度)』
(同上、4月)

磯村英一 「新法と同和行政の展望」
(『部落解放』一九七号、5月)

長崎県 『同和对策事業のしおり(昭和58年度)』 (同上、5月)
《特集》 「隣保館の現状を考える」 (『部落』三四二号、6月)

山本敏貞 「戦後隣保館事業の歩み」
杉本浩平 「働き者とは何かはつかのふとん―八日市市野口町
―」

住田一郎 「地域住民に密着した館活動の追求―大阪・住吉解
放会館―」

池田孝雄 「合意を、そして自立を―印南町切目社会教育セ
ンター―」

前田秀明 「隣保館を地区住民の自立の拠点に―岡山市清輝隣

「保館」

田中喜代三・榎本博次・(きき手)東上高志「対談・館長のなやみとよろこび」

全隣協近畿ブロック協議会「近畿地区隣保館職員研究会討議資料(第6回)」(同上、1983年)

埼玉県「同和对策事業概要(昭和58年度)」

(同上、1983年)

長野県社会部同和对策課「長野県同和对策(昭和58年度)」

(同上、1983年)

大阪府企画部同和对策室「同和对策事業のしおり」

(同上、1983年)

【運動】

斎藤喜作「『八鹿・朝来暴力事件』論告求刑判決を傍聴して」

(『部落』四三〇号、4月)

瀬川貞太郎「(現地報告)土地転がしのあとさき」(同右)

村崎勝利「(動向)運動・全解連第十二回定期大会、確かな団結を示す」(同右)

八鹿・朝来暴力事件論告求刑判決特集

(『月刊部落問題』七十七号、4月)

西岡幸利「『八鹿の真実』をすべての国民の中に」ほか

編集部・同和行政研究会「愛媛県にみる奇怪な同和行政・教育と部落解放運動」(『部落問題—調査と研究』四三三号、4月)

野間 宏「狭山裁判第87回—異議申立の棄却決定批判⑧」

(『世界』四四九号、4月)

部落解放研究所「入門部落解放運動」

(部落解放同盟大阪府連合会、4月)

蛇草識字学級運営委員会「文集はぐさ」(同上、4月)

東京都連「部落解放東京都研究会討議報告集(第十四回)」

(同上、4月)

大阪府同和事業促進協議会「10年をふりかえって—」あいつく差別事件」冊子発行10周年記念誌」(同上、4月)

大阪府同和事業促進協議会「大阪府同和事業促進協議会定例総会報告並議案書(第三十二回)」(同上、4月)

事務局(杉山)「県警による採用差別問題—経過と資料」(同右)

《特集》「差別の獄20年石川さんを取り戻そう」

(『部落解放』一九七号、5月)

山上益朗・小森龍邦「(対談)新証言を武器に運動の国民的

広がりを—狭山闘争20年をふりかえって」

雄元昌弘「狭山裁判20年の軌跡」

盛 善吉「石川のおぼあちゃん」

(資料)「年表・狭山差別裁判(一九七九年七月—一九八三年三月)」

山上益朗「捜査の違法性への告発—小名木新証拠に関連して」

(『解放教育』一六五号、5月)

(資料)「『狭山』に関する参考文献」(同右)

《特集》「『差別糾弾』を考える」(『部落』四三二号、5月)

山本敏貢「『差別糾弾闘争』への疑問」

東上高志「差別糾弾は教育になり得るか—愛媛県土居町における糾明会をめぐって」

馬原鉄男「部落解放運動と差別糾弾」

川口 是「差別『糾弾』の原則とはなにか」

石田真一「同和教育と差別糾弾」

全国部落解放運動連合会「(資料)差別事象にたいする全解連の態度」

部落解放同盟中央本部糾弾闘争本部「(資料)差別糾弾闘争の基本」

小森龍邦「人間の尊厳と部落解放運動」(『社会主義』二二二号、5月)

野間 宏「狭山裁判第88回—異議申立の棄却決定批判⑦」

(『世界』四五〇号、5月)

大阪府連「大阪府連大会議案書(第三十回)」(同上、5月)

解放新聞社「第38回部落解放同盟全国大会—一九八三年度一般運動方針案」(『解放新聞臨時号』(同上、5月)

大阪市婦人問題対策推進協議会「大阪市婦人施策に関する基本計画」(同上、5月)

「ながら」編集委員会編「ながら—大阪大空襲を語り継いで」

(同上、5月)

「ながら」編集委員会編「ながら—大阪大空襲を語り継いで・遺跡めぐりマップ」(同上、5月)

兵庫県連「兵庫県連大会一般運動方針書(第二十四回)」

(同上、5月)

部落解放研究所「入門部落解放運動」

(部落解放同盟大阪府連合会、4月)

蛇草識字学級運営委員会「文集はぐさ」(同上、4月)

東京都連「部落解放東京都研究会討議報告集(第十四回)」

(同上、4月)

大阪府同和事業促進協議会「10年をふりかえって—」あいつく差別事件」冊子発行10周年記念誌」(同上、4月)

大阪府同和事業促進協議会「大阪府同和事業促進協議会定例総会報告並議案書(第三十二回)」(同上、4月)

事務局(杉山)「県警による採用差別問題—経過と資料」(同右)

《特集》「差別の獄20年石川さんを取り戻そう」

(『部落解放』一九七号、5月)

山上益朗・小森龍邦「(対談)新証言を武器に運動の国民的

広がりを—狭山闘争20年をふりかえって」

雄元昌弘「狭山裁判20年の軌跡」

盛 善吉「石川のおぼあちゃん」

(資料)「年表・狭山差別裁判(一九七九年七月—一九八三年三月)」

山上益朗「捜査の違法性への告発—小名木新証拠に関連して」

(『解放教育』一六五号、5月)

(資料)「『狭山』に関する参考文献」(同右)

《特集》「『差別糾弾』を考える」(『部落』四三二号、5月)

山本敏貢「『差別糾弾闘争』への疑問」

橋本 要(撮影)「万年筆はキラリと光った—狭山事件20年目の現場検証」(『アサヒグラフ』三二四二号、5月)

中山武敏「大分・高田事件の真相—行政交渉権への弾圧」

(『部落解放』一九八号、6月)

木津 謙「部落差別による結婚破棄に断罪—」慰謝料など五百五十万円を支払え」と大阪地裁が判決」(同右)

高橋康雄「『良い名字』『悪い名字』と差別講義—長野県・岡谷東高校でK教諭」(同右)

小森龍邦「全国水平社創立六一年目のたたかい」(『社会啓発情報』一三三号、6月)

大賀正行「いま、発想の転換を—新法2年目を迎えて」(同右)

(資料)「判決・東大阪結婚差別事件」(同右)

堀内金義「(動向)運動・なぜ『反対運動は職業差別』の攻撃をはね返せたか—大和郡山市、食肉流通センター反対運動」

(『部落』三四二号、6月)

南野昭雄「京都市の同和地区改良事業における公金詐取事件」(同右)

〈資料〉「用地取得等調査特別委員会報告書」(同右)

野間 宏「狭山裁判第89回—異議申立の棄却決定批判」(25)」

(『世界』四五二号、6月)

石田 真・松本哲泓・河合健司「判例紹介」速報1、被差別部落出身であることを理由とする婚約破棄は、婚姻予約上の地位の侵害として不法行為を構成する、2、第三者が婚約者の一方

の被差別部落出身者を理由に婚約の履行に干渉して妨害し、こ

れを破棄させたときは、右破棄者と共同して不法行為の責を負う」(『判例タイムズ』四九二号、6月)

△第38回部落解放同盟全国大会報告集△

(『部落解放』一九九号、6月)

愛知県連『愛知県連大会議案書(第八回)』(同上、6月)

佐賀県連『佐賀県連大会議案書(第二十四回)』(同上、6月)

大阪府連婦人部『大阪府連婦人部大会議案書(第十三回)』

(同上、6月)

大阪府連日之出支部『大阪府連日之出支部大会議案書(第二十二回)』(同上、6月)

大阪府連沢良宜支部『沢良宜支部定期大会議案書(第二十一回)』

(同上、6月)

『同和』対策事業特別措置法強化改正要求国民運動中央実行委員会『政府交渉の要求と解説(一九八三年度)』

(同上、1983年)

解放新聞大阪支局『みんながつくる83年版』(同上、1983年)

【解放教育】

△

『特集』「いま教育に問われていること」

(『部落解放』一九六号、4月)

遠藤豊吉・山中多美男「△対談△いま教師に問われているもの」

△

明島祐見子ほか「私を変えた子どもたち」(同右)

中西三郎「『同和教育』の原点にもどって」(同右)

広島高教組・解放教育推進委員会「権利としての解放教育の確立を」(同右)

△荒谷一郎「教師が変わることを出発点として」(同右)

△『特集』「教育実践の断面―若い教師からの提起」

(『解放教育』一六四号、4月)

岩浅和博「何もわからぬままに」

野口良子「反差別の集団づくり」

楳山素伸「書くことを迫りつつ」

中島順子「やっぱり、子ども会にこなあかん」

大黒孝文「すれちがいの中で、ある一つの出会い」

(編集部)「現場報告・青雲高校分会―徹底した管理体制に抗して」(同右)

(資料1)「敢本処分人事委員会審理最終準備書面抄」(同右)

(資料2)「元青雲高校敢本常宏教諭懲戒免職処分不服申立に關する公正裁決をもとめるアピール」(同右)

△『小特集』「同和加配教員制度をめぐって」

(『部落』四三〇号、4月)

石田真一「同和加配教員のあり方―現状と今後の課題」

中野 功「同和加配」教員の現状と課題―京都府」

桂 正夫「今月の同和加配教員問題の一端―大阪府」

窪田充治「同和加配教員の任務はなにか―高知県」

石田真一「部落の子ども記―名無しの子」

(『月刊』の子も伸びる』七二号、4月)

東上高志「いま同和教育から学ぶもの―同和教育の功罪」1

(同右)

△『特集』「激動する解放教育」(『解放教育』一六五号、5月)

△I 全同教結成三〇年△

寺澤亮一「刻まれてきた確かさを―子どもたちの自立と集団の確立をめざして」

中野陸夫「同和教育における教科指導の位置とその発展」

△全同教あの日△

松本喜一郎「初期のころを顧みて」

中村弘三「『対独占』時代―自立と動揺のはざまにあって」

中川福督「『絆』を断たれることのないために」

△全同教とひと△

住田利雄「盛田嘉徳」

清原草宣「西口敏夫」

藤本陸男「谷口照義」

(資料)「全同教略史」

△II 日教組第三二次・日高教第二九次教育研究全国集会△

市川正昭「あきれはてつともかなしむこと―日教組教研へ人權教育△分科会ではいま何が起っているのか」

森田敦子「お父さんは妹をせおって山ににげました」

大代あき「文化祭での劇づくり―総括討論のために」

愛甲伸一「部落のじいちゃんばあちゃんにえぐらわつて一歳字学級に学ぶ」

越智勇二・宮本久江・高 隆三・岩野政樹「教研集会に参加

つり」

小沢有作「資料／教育実践における事実とは何か」

△『特集II』「全同教結成30年を迎えて」

(『部落解放』一九八号、6月)

松浦勇太郎・谷内照義・(司会) 中村弘三「対談・全同教の結成のころ」

川向秀武「全同教運動の足跡に学ぶ―初期の運動を中心に」

門田秀夫「全同教・同和教育運動の今日的課題」

渡久山長輝「部落解放教育を教組運動としてどう取り組むか」

△『特集』「部落問題学習を基軸にすすめる」

(『解放教育』一六六号、6月)

蔵本穂積「部落の思想をこそ」

岡部 悟・平島明彦・平山毅夫「わが村の西田闘争に学ぶ」

岡崎高幸「地域の解放の課題の学習と教材化」

(門真市立速見小学校一年生教師集団)「『にんげん』をわ

がの問題として―『じいちゃんのおくぶん』より」

中村弘三「部落問題学習と授業」

中尾健次「部落史に学ぶこと―研究者・教師・子ども」

川元祥一「部落の歴史と文化について」

木下一美「定時制高校進学をめざす直人にかかわって」(同右)

深海達之「『にんげん』新教材活用について・1―小学校一、二年生用の部」(同右)

(資料)「一教諭の転任取り消し」(同右)

(資料)「敢本処分人事委員会審理最終準備書面抄」(同右)

西端平吉「(動向)教育・岡山県における民主主義教育に対する

露骨な攻撃—いわゆる同和教育の『名称問題』を利用した解同
 ・『解放教育』の公教育への介入」
 (『部落』三四二号、6月)
 川向秀武「『同和』教育研究の総括と研究課題」
 (『授業研究』二五二号、6月)

【人権】

藤林晋一郎「連載・部落に生きる『障害者』群像—大阪編(第四話) みんなで仕事をつくらうや—仕事保障をもとめて(部落解放同盟和泉支部)」(『部落解放』一九六号、4月)
 黒田伊彦「検定・高校歴史教科書の記述を批判する—その④沖繩・アイヌにかんする記述」(同右)
 守川正道「『人食い人種』伝説の由来について」(同右)
 島比呂志「日本の郵部—癩政策と優生保護法」
 (『解放教育』一六四号、4月)
 (『社会評論』四二二号、4月)
 佐々木辰夫「インド不可触民と共産主義運動」
 (『社会評論』四二二号、4月)
 ≪特集≫女性解放と婦人労働者≫(同右)
 瀬口桃子「日本共産党の『女性解放』とは?」ほか
 ≪総合特集≫「沖繩学入門」(『言語』一一二号、4月)
 ≪特集≫「国籍法改正中間試案」
 (『ジニリスト』七八八号、4月)
 池原幸雄・久保田きぬ子・塩野宏ほか「(座談会) 国籍法改正に関する中間試案をめぐって(上)」

新泉社編集部編『現代の反差別の思想と運動』(新泉社、4月)
 民法教育指導研究会『民法の解説—家族法』(一橋出版、4月)
 斎藤恵彦「人種差別撤廃条約の持つ意義—反差別国際会議から学んだこと」(『部落解放』一九七号、5月)
 藤林晋一郎「連載・部落に生きる『障害者』群像—大阪編(第五話) 生きがいとしての仕事—聞きとりを中心にして(部落解放同盟浪速支部)」(同右)
 守川正道「南ア連邦での差別の由来」(同右)
 鏡本三千年「特集・中国の盲教育と盲字出版」
 (『視覚障害』六五号、5月)
 久保田洋「人権侵害に関する国連への申し立て(通報)—国連実務からみた効果的な提訴方法」
 (『法律時報』六七〇号、5月)
 金 東 勲訳『国際連合と人権』(部落解放研究所、5月)
 国際人権規約大阪府民会議編『世界人権宣言35周年を記念したとりくみを強めよう』(同上、5月)
 正木ひろし著・家永三郎(ほか)編『社会・法律時評』(正木ひろし著作集第4巻)(三省堂、5月)
 友永健三「世界人権宣言35年にむけたとりくみを強めよう」
 (『部落解放』一九八号、6月)
 島比呂志「『片居』からの解放—癩の現状について」
 (『解放教育』一六六号、6月)
 辛 基 秀「隠された史実を甦らせる」
 (『社会啓発情報』一三三号、6月)

<資料>「国籍法改正に関する中間試案 同・解説」
 細川 清「国籍法改正中間試案の概要」
 石田玲子「国籍選択制の問題点—国籍選択の権利と『氏・戸籍の国際化』」
 金 東 勲「国籍法改正に関する中間試案と国籍を取得し遷居する権利」

金城清子「国籍を有する権利と国籍法改正」
 後藤明史「国籍改正に関する『中間試案』について」
 二宮正人「同性平等と国籍の積極的抵触の防止」
 ≪特集≫「冤罪と再審の新しい動向」
 (『法学セミナー』三三八号、4月)
 小田中聡樹「冤罪と再審をめぐる最近の問題状況」ほか
 坪井 正「『冤罪』とマスコミの責任」
 (『マスコミ市民』一七九号、4月)
 (編集部)「国連婦人の地位委員会報告—一九八五年世界会議準備委員会として—日本政府代表藤田瞳子氏報告から」
 (『月刊婦人展望』三二七号、4月)
 佐藤文明「(外国人登録法)『指紋押なつ』拒否の闘い」
 (『現代の眼』二八〇号、4月)
 津田真澄「日本の労働社会を愛するパート労働者—台頭する手てわい労働力群」(『エコノミスト』二五〇八号、4月)
 松田政弘「沖青協35年の歴史と現在の課題」
 (『月刊社会教育』三二四号、4月)
 岩波書店編集部編『80年代の日本国憲法』(同上、4月)

金 東 勲「今年の世界人権宣言35周年①—世界人権宣言と差別撤廃」(同右)
 社会啓発スライド制作委員会・部落解放研究所編『女性差別撤廃条約とわたしたちのくらし—社会啓発スライド「学習の手びき」』(同上、6月)
 大阪同和問題企業連絡会編『差別の原点を求めて—インド・カースト制度研修の旅』(発足5周年記念)(同上、6月)

【社会啓発】

中原吉郎「社会教育私史(三) 私の同和教育」
 (『社会教育』三一五号、5月)
 部落解放研究所啓発企画部『社会啓発情報』No.13(同上、5月)
 山本 登「同和行政と市民啓発」(明石書店、5月)
 部落解放研究所・部落解放大学実行委員会「部落解放大学講座受講生のしおり第11期」(部落解放研究所、5月)
 福岡安則・鐘ヶ江晴彦「マスコミ人における『差別用語』問題」
 (『解放教育』一六六号、6月)
 大森龍三「(講座)職場研修入門①辞令をもらったその日から」
 (『社会啓発情報』一三三号、6月)
 中原正治「私の歩み」(『人権通信』一〇三三号、6月)
 伊藤小一郎「啓発事業のとりくみ」(同右)
 宮本 誠「心豊かな地域社会をめざして」(同右)
 磯村実一「人権問題と同和教育」(解放出版社、6月)

【文化・思想】

- 松江ちづみ「第8回部落解放文学賞児童文学部門佳作」連載第9
回「あんちゃん」(『部落解放』一九六号、4月)
野間宏・沖浦和光「アジアの聖と賤―被差別民の歴史と文化」
(人文書院、4月)
中上健次「地の果て至上の時」(新潮社、4月)
松江ちづみ「第8回部落解放文学賞児童文学部門佳作」連載第10
回「あんちゃん」(『部落解放』一九七号、5月)
塩見鮮一郎・梁石白「(対談)差別と文学」
(『同時代批評』七号、5月)
宮内勝典・水上勉「対談・闇の温かさについて」
(『世界』四五〇号、5月)
岡庭昇「解体されるべき共同性はなにか」
(『同時代批評』七号、5月)
明治教育史研究会編「杉浦重剛全集 第一巻」
(杉浦重剛全集刊行会、5月)
橋本正樹「守もいやがる盆から先にや」
(『凱風』五・六号、6月)
井口時男「物語の身体―中上健次論」
(『群像』三八巻六号、6月)
【宗教】
平井清隆「蓮如とその生母の謎」(四)

(『大法輪』五十巻四号、4月)

梅原正紀「(梅原正紀の新・宗教界の内幕)曹洞宗の反差別闘争にマンエンしだしている「意欲喪失症」」
(『現代の眼』二八〇号、4月)

成沢栄寿「(動向)運動・佛教徒平和会議で同和問題を論議」
(『部落』四三二号、5月)

平井清隆「蓮如とその生母の謎」(五)

(『大法輪』五十巻六号、6月)

【通史】

丹波正史「富山県における部落問題の歴史と現状」

(『部落』四三〇号、4月)

部落問題研究所編「部落の歴史―西日本編」(同上、4月)

藤谷俊雄「連載・二〇世紀に生きる―あるインテリの自伝的歴史

(1)誕生」(『部落』四三二号、5月)

本田豊「狭山の部落史―形成と解放へのたたかい」(連載第11

回) (『狭山差別裁判』一一三号、5月)

大阪人権歴史資料館「大阪人権歴史資料館報1」(同上、5月)

大阪人権歴史資料館「大阪人権歴史資料館ニ展示の御案内」(第

一回) (同上、5月)

椿繁夫「水脈遠く―五十年風雪の道」(新時代社、5月)

奈良本辰也「巨星墜つ―朝田善之助を追憶して」

(『こぼる』六五・六六号、6月)

山本尚友「事実とちがう事実にて注意」(同右)

- 川村善二郎「人間平等の信念に徹した生涯―植木徹之助おぼえが
き」(『部落』三四二号、6月)
藤谷俊雄「連載・二〇世紀に生きる―あるインテリの自伝的歴史
(2)幼年時代」(同右)
本田豊「狭山の部落史―形成と解放へのたたかい」(連載第10
回) (『狭山差別裁判』一一二号、4月)
中央本部「故朝田善之助部落解放同盟葬」(同上、6月)
松井久吉「被差別部落に生きる―わが半生の記」
(三二書房、6月)
【前近代】
成沢栄寿「部落の生活史12―浅草の弾左衛門」
(『部落』四三〇号、4月)
人見彰彦「(シリーズ)部落史のひとこと」
(『部落問題―調査と研究』四三三号、4月)
大森久雄「(史料解説)享和元年・浅口郡の打牛一件」(同右)
鈴木良一・峰岸純夫・加藤文三「現代人のための日本歴史」連載
⑩「一揆と下剋上―室町末・戦国時代の権力と民衆」(上)
(『文化評論』二六五号、4月)
成沢栄寿「部落の生活史13―弘前藩乞食頭丁助と手下孫太郎」
(『部落』四三二号、5月)
石尾芳久「一向一揆と部落―被差別部落の起源」(三二新書45)
(三二書房、5月)
東義和「被差別部落と一揆」(明石書店、5月)

岡本良一「乱・一揆・非人」(柏書房、5月)

大森久雄「部落の生活史14―五三郎の訴え―淡染一揆後の皮多」

(『部落』三四二号、6月)

佐々木銀弥「書評・脇田晴子著『日本中世都市論』」

(『史学雑誌』九二巻六号、6月)

【近現代】

板野勝次「労・農・水の『三角同盟』の回想―岡山県水平社創立

六十周年によせて」(『部落問題―調査と研究』四三三号、4月)

加島部落史研究会編「あゝ解放の旗高く―加島における部落解放

のおゆみ」(同上、4月)

西大阪水平社創立60周年記念誌編集委員会「水平線にひるが

えり―西大阪水平社創立60周年記念誌」(同上、4月)

安達五男編「近代の教育と部落問題」(明石書店、5月)

美馬敏男編「近代高知県部落史資料2」

(高知県同和教育研究協議会、5月)

大阪府連第30回大会記念集會実行委員会「大阪府連第30回定期大

会記念集會」(同上、5月)

佐々木隆爾「報告批判」(一九八二年度日本史研究会大会研究報告

・中村報告について) (『日本史研究』二四九号、5月)

《特集I》「高松差別裁判闘争の教訓」

(『部落解放』一九八号、6月)

井元隆之「身分的共通感情がたたかう原動力だった」

米田富問題をきいたただけで直感でみんな奮起したんです」

難本昌久「高松差別裁判糾弾闘争」

西田英二「高松事件のふるさとを訪ねて」

鈴木良「いわゆる賤民『解放令』と戸籍法について——一八七一年九月五条県布達の紹介」

(『奈良県近代史研究会会報』二七号、6月)

田窪清秀「ひとつの教訓の歴史4——水平社解消意見から部落委員会活動まで」(『社会評論』四三号、6月)

解放出版社「同愛、復刻版1〜3」(同上、6月)

国連の人権活動に関する普及書

国際連合と人権

田畑茂二郎 監修 金 東勲 訳

A5判260頁 定価2,000円

国連の同名の本を初めて翻訳出版。

人権の確立と擁護を求め国連を中心に人権の法典化や擁護の制度化がすすんでいる今日、本書はその全容を伝え、『人権』に関心をよせる人にこの基本的な人類の課題ととりくむ世界的連帯の重要性をおしえてくれる。

(社)部落解放研究所

大阪市浪速区久保吉1-6-12
TEL. 06-568-1300